

## 令和2年度第1回三木市中小企業振興審議会議事録

- 1 日時・場所 令和3年3月23日(火) 午後5時00分から午後6時30分  
市役所5階 大会議室
- 2 出席者 <委員8名>  
西井会長、梶本副会長、五本上委員、川西委員、桑田委員、小林委員、  
稲田委員、富田委員  
<事務局7名>  
仲田市長、與倉産業振興部長、小山商工振興課長、  
近藤商工振興課係長、田中商工振興課係長、  
小阪商工振興課主事、平野商工振興課主事  
<オブザーバー1名>  
正木中小企業サポートセンター長
- 3 欠席者 0人
- 4 会議の公開、  
非公開の別 公開
- 5 傍聴人の数 0人
- 6 開 会
- 7 議 事

会長	中小企業振興施策（アクションプラン）の実施状況について、事務局から説明をお願いします。
事務局	<p>資料1「第2次中小企業振興のためのアクションプラン」について説明</p> <p>資料2「令和2年度 第2次中小企業振興のためのアクションプラン 目標値・実績値 進行管理表」について説明</p> <p>資料3-1「令和元年度 中小企業振興施策の実施状況」および資料3-2「令和2年度 中小企業振興施策の実施状況」について説明</p>

会長	引き続き中小企業の現状等について、事務局から説明をお願いします。
事務局	資料7-1「中小企業振興策（アクションプラン）の意見・アイデアの集約（まとめ）」について説明
会長	それでは、委員の皆様から順番に、ご意見等、ご発言をいただければと思います。
委員	<p>何点かお聞きしたいことありますので、この場でお伺いします。</p> <p>三木市の人口が将来的にどのように推移していくかによって、対策を考えていく必要があると考えます。人口が減っていくことを前提として対策を立てていくのか、あるいは減少を食い止めることを前提にしていくのか、どうお考えでしょうか。</p> <p>また、三木市自体をどのような都市にしていくことを目指すのか、がポイントになると考えます。金物を中心とした製造業で盛り上げていくのか、あるいはゴルフ場や温泉などの観光施設を中心とした観光都市的などところを目指していくのか、現時点で市としてお考えがあるのであれば、教えていただきたいと思います。</p> <p>また、三木金物の日本国内でのシェアはどの程度あるのか、そして、今後は国内でのシェアを増やしていくことを考えておられるのか、あるいは海外進出を目指していくのか、質問させていただけたらと思います。</p>
事務局	<p>まず前提として、まちづくりなどの大局的なお話は総合計画や創生計画の中で議論するものとして切り離し、この審議会では、中小企業の振興策を中心に、少し観光を加えた範囲での議論をさせていただきたいと考えています。</p> <p>三木金物のシェアに関しては、明確な統計数値が出ていないので把握は困難ですが、大工道具の範囲では、かなり大きいと考えられます。ただし、機械刃物の部類では市場が非常に大きいため、シェアとしては大きいものではないと考えます。</p> <p>なお、国内でのシェア獲得も大事ですが、現在は海外への進出を目指したいと考えており、今回の審議会では、金物メーカーの方や海外を対象とした貿易商社、金物卸売業の方にも委員として参加いただいておりますので、製品シェアの状況や業界の現状、ご意見などをお伺いしたいと考えています。</p>
事務局	人口については、総合計画の中で目標が立てられています。現在、見込まれている減少率に基づけば、2060年には4万人になると試算される所を、流出を食い止め転入を増やすことにより5万人を確保することを目標としています。

	<p>また、産業については、三木市には現在、金物、山田錦、ゴルフという3つのブランドがあります。</p> <p>経済産業省の「地域ブランドエコシステム」の対象となっている山田錦を中心に、金物とゴルフにも相関性を持たせてブランディングし、海外展開を図っていこうというのが、現在検討を進めている施策です。</p>
委員	<p>金物、ゴルフ、山田錦のブランディングに関して、特にWebを利用した情報発信などについて、三木市として具体的にどのような方法を考えておられるのでしょうか。</p>
事務局	<p>市としても、Webによる情報発信は非常に重視しています。</p> <p>経済産業省から後押しを受け、市で検討会議を行っているブランドエコシステムの取組として、山田錦を中心に、金物とゴルフを絡めたストーリーを持たせたプロモーションビデオの制作に取り掛かっています。こちらは英語版も作成し、海外への発信につなげていこうとしています。</p> <p>金物については、来年度の計画として、三木金物商工協同組合連合会で、動画を含めたWebサイトを、英語版も合わせて作成しようとしています。</p> <p>ゴルフについては、全国の高等学校・中学校の大会がまさに今開催されているところで、三木をゴルフの聖地にしていこうとブランド化を進めているところです。</p>
委員	<p>最近では、一般の市民の方の中にも、情報を発信するチャンネルや、アイデアをお持ちの方がいらっしゃると思います。</p> <p>それを吸い上げていくというお考えはありますか。</p>
事務局	<p>現在、検討会議の中では、そのような仕組みを作ろうという話はありませんが、例えば、大学のサークルで作られている日本酒の飲み方研究会などとは連携をしています。</p> <p>そのように、大学等と連携し、その中でいろいろな若い人たちの意見を取り入れ、またSNS上で発信してもらおうということを、現在取り組んでいます。</p> <p>ただ、具体的にどのような仕組みを作り、どのように進めていくのかという方向性は、まだ出てはおらず、大学と連携しながら、まずはいろいろと始めていこうという段階です。</p>
委員	<p>総務省が主体となっている地域おこし企業人制度というものがあります。</p> <p>自治体に対しても、地方交付税の対象となる制度でもあるので、そういったものを活用されるのも一つのアイデアとしてあると思います。</p>

委員	<p>ます。</p> <p>当社の現状を述べさせていただきます。</p> <p>貿易商社として世界を相手に事業をしていますが、この1年間、予期せぬことが次々と起こり、それに対応するためのチャレンジの連続で、その影響がじわじわと響いてきています。先の見通せない状況で、日々変わる顧客の要望に一つ一つ誠意をもって答えているという状況です。</p> <p>受注が好調な企業も多くあるということでしたが、この受注が本当に実需であるのかという見極めが非常に大切だと考えています。</p> <p>品不足の状況であるため、多めに発注したり、先々の分も含めて注文を出すなどしていることも考えられることから、マーケットの環境が戻った時のことを考えると、非常に不安であると懸念しています。</p> <p>また、企業の皆さんにおかれましては、展示会等の出張に行かれず、経費を抑えられているという側面もあるかと思えます。</p> <p>そういう部分を備蓄せず、投資に向けていくということも、今後の営業活動に非常に重要な課題だと考えています。</p>
委員	<p>私も当社の現状をお話しします。</p> <p>工場の自動化の設備等を取り扱っていますが、コロナウイルスの影響で各企業との取引が停滞している状況です。</p> <p>また、こうした工場の自動化は、自動車の分野が中心であり、電気自動車が主流になるのか、という風潮の中で先行きが不透明な部分もあり、受注自体は少し停滞しているような状況です。以前からその傾向はありましたが、コロナウイルスの影響によりそれが一層顕著になっているように思われます。</p> <p>市では市内企業の従業員の平均年齢を把握されているのでしょうか。平均年齢が分かれば、10年後、20年後を見据えた時の考え方が変わると思えます。例えば、平均年齢が高いようであれば、若い優秀な人材が必要となり、施策が変わってくるかと思えますので、お尋ねします。</p>
事務局	<p>企業の従業員の平均年齢については、商工会議所の雇用に関する調査の結果を参考とさせていただくことが多く、市では調査していません。</p>
委員	<p>人材確保に関して、大学生や高校生をどうやって三木市に留めるかという点で、地元企業の魅力アップが大事だと思います。</p> <p>地場産業のこれからの発展については、設備投資ができるような土地の規制解除が必要ではないかと考えます。地場産業であっても様々な規制があり、他の業種についても、設備ニーズや物流倉庫のニーズはあると思われるので、そういった投資の意欲を拡大していく必要が</p>

委員	<p>あるのではないかと思います。</p> <p>また、山田錦だけでなく、自然を生かした、コロナ後のアウトドア、グランピング等の観光人口の集客を考える必要があるのではないかと考えています。</p> <p>にっぽんの宝物プロジェクトのセミナーが、非常に活気あるものになりました。参加者の意識レベルが高く、自分たちの作っているもので全国に打って出ようという意思を感じるセミナーでした。</p> <p>今年度はプレセミナーという位置づけでしたが、来年度はこれを広域に広げ、三木市を中心とした周辺地域のグランプリを決め、全国大会まで出場するというようなプロジェクトですので、これが起爆剤になればという期待を持っています。</p> <p>ゴルフのまち三木については、今まさに春高、春中全国大会が開催されています。これは三木市で恒久開催をしていこうという方向で進みつつありますので、ゴルフのまち三木というのを一つの切り口に、まちのイメージの高質化に資するよういろいろな施策を打っていただければ、と考えています。</p> <p>市内には25のゴルフ場があり、雇用や税収の面でも非常に大きな産業の一つですので、これを活性化させ、また、ワーケーションに対する機運も高まっている中でその具体化を進めているので、時流に乗せて様々なところで取り上げていただければ、三木市の発信力につながると考えています。</p>
委員	<p>吉川町でも人口の減少に悩んでおり、合併前は1万人近くであったものが現在は7千人を切っています。</p> <p>町を活性化するため、山田錦の館の改革と、酒米に代わる新しい商品の開発として、酢の製造に取り掛かっており、この2点を柱にして町の発展につなげていきたいと考えています。</p>
会長	<p>大学との連携の話が出ましたが、その際には、私の大学にもお声掛けいただければと思います。</p> <p>私は神河町との付き合いが長く、関係人口増加の取り組みとして、すでに10年以上、学生を町に送って活動させていただいています。また、昨年からは社会人の大学院生が地域に入り、一緒になって課題解決に当たるという地域貢献もさせていただいています。</p> <p>近年は、ほとんどの大学が地域で何らかの事業を行っていると思われます。</p> <p>三木市でも連携されていると思いますが、そのような大学との関係は、コロナを機に、大学側、地域側ともにより戦略的に行っていくべきだと思います。</p> <p>具体的には、インフルエンサーなどと言われるように、SNSの分野などでは学生が一番強い力を持っています。</p>

したがって、金物やゴルフをどうやって発信していくのか、どういうことをやれば興味を持ってもらえるのか、という検討を、大学との新しいプロジェクトとして行っていけば効果があるのではないかと思います。

今まで産業振興という中では、大学との関係というものはあまり議論されてこなかったのではないかと思います。

これからは、どこの大学でも、地域課題やコロナに関する課題の解決に向け、本気になって行政と一緒に取り組んで行きたいという考えだと思いますので、行政の方でもバックアップしていただければ、より参画していきやすいと思います。

また、今回は企業の社長さんも委員に入っておられますが、そのような方々からも、一緒にやろうというお声掛けをいただければ、大学としては参加しやすくなると思います。

今回、私が関わっている他の地域と比べても、三木市は非常に多くの施策に取り組まれていると思いました。

ただ、今後、三木市ならではという支援策を作るにあたり、今回のお話の中で出たエコシステムにうまくつなげていければ良いのではないかと思います。

エコシステムというのは、各企業同士が連携している状態で、一番有名な例はシリコンバレーです。ITやバイオなどの企業が育つための様々な仕組みが、単発ではなくうまく繋がり合って機能しており、企業が成長できるとともに、支援策も単発ではなくつながって実施できます。

エコシステムというのは今非常に注目されている分野ですので、ゴルフ、山田錦、金物をどのようにつなげたら一つのエコシステムができるのかということを考えていけば、今までにはない政策のあり方や、施策のつながりが見えてくるのではないかと感じました。

コロナの終息に向けて様々なシナリオが出ておりますが、ようやく次がウィズコロナという段階です。

今は緊急事態がようやく少し抜けてきたかという時点で、経済的な復興に関してはまだまだこれからです。ワクチンが出回ったとしても、それは病気が収束するというだけで、経済的な部分が復活していくということであれば、短くても2年、長ければ5年程度要すると思われれます。

そういった意味で、来年度がやはり分水嶺になると思います。ここでどのような手を打っていかないといけないのかというのが、企業側にとっても非常に重要になってきます。そういったことも、政策を考える上での一つの視点になると思っています。